



にしき園で 「仙北あんしん丸」始まる！

詳しくは裏面をご覧ください！



仙北市ヘルスケアDXとは…？

仙北市は人口減少によるヘルスケア分野の人手不足という課題を解決するために、デジタルをサービスに取り入れ組み合わせる「DX」という手法を適用することで、優れたサービスの質と高い効率の医療や介護提供を目指します。

市民の皆さんが、これまで受けて来られた健康診断や診療情報「健幸DX手帳」をPHRで管理し、医療MaaS「せんぼく医信電診丸」を運行することで、交通弱者の方などに安心して医療やヘルスケアサービスを受けられるよう整備を進めます。まずは、西明寺診療所を中心に提供を開始します。

ポータルサイトは**1月末**公開予定！

毎月1回、サービスの詳細や進捗について「せんぼくヘルスケアDX通信」でお知らせします！

「仙北あんしん丸」は、にしき園を過ごしやすい、働きやすい場所へ。

DXの技術を導入し、にしき園をより良い場所に。

仙北市ヘルスケア DX では、MaaS 車両や PHR といったサービスの導入のほか、介護の現場にも DX の技術を導入することになりました。仙北市介護老人保健施設「にしき園」では、さまざまなシステムや機器の導入を行い、利用者の皆さんにとっては、より快適な場所になることを、働く介護職員の皆さんにとっては、より働きやすい場所になることを目指していきます。

具体的に今回導入されるシステムや機器をいくつかご紹介しましょう。

①介護記録システムを導入



介護施設では職員が記録管理業務を行っています。導入する記録管理システムにより作業効率の向上が図られ、利用者の方とのコミュニケーションが取りやすくなります。

②ロボット歩行器の導入



歩行能力の改善によって健康寿命延伸が期待されることから、ロボット歩行器を導入します。いつまでも健康で自立した生活を送れるよう、サポートします。

③パワーアシストスーツの導入



介護施設で日々行われるベッドやトイレ、お風呂などでの介護作業は腰に大きな負担がかかります。パワーアシストスーツの導入で、職員の方の腰の負担を軽減します。

④見守りシステムの導入



見守りシステムを利用者の方のマットレスに取り付けることで寝返り、呼吸、脈拍などのデータを検出し、利用者の方の状態に合わせたケアが可能となります。